

平成26年度無形民俗資料記録映像「栗野春慶塗」から

(無形民俗資料記録映像について)

平成7年度以降、茨城県立歴史館では、茨城県下の無形の民俗事例を、映像に記録する事業を展開してきました。無形の民俗事例は、有形の民俗資料とは異なり、物質としての形をもちません。それ故により可変的な性格のものであり、担い手の交代や時流の変化に対応して、刻一刻とその「型」を変化させていきます。また、社会構造の変化や伝承者の消失などにより、その存続が危ぶまれている事例も多く見受けられます。本事業は、このような無形の民俗事例の現在の姿を記録し、後世に伝える一助となるべくスタートしました。平成26年度は、国から「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」に選択されている「栗野春慶塗」について調査・研究し、その成果として記録映像を制作しました。

(栗野春慶塗の歴史について)

栗野春慶塗は伝承によると、室町時代の延徳元年(1489)に稲川山城守源義明が考案し、その孫義忠が現在の城里町栗の地で始めたといわれています。その後、元禄12年(1699)には、8代目稲川與兵衛が、水戸藩2代藩主徳川光圀に召され、紀州の漆工と競い、その技術を認められて、水戸家塗物御用達となっています。9代藩主徳川斉昭も、江戸邸で使用すべき国産物の中に栗野春慶塗を指定し、その保護・奨励に努めました。大正末期から昭和初期にかけては、県内の工房は20数軒を数え、朝鮮半島や中国へも販路を伸ばしました。



栗野春慶塗御用箱（蓋裏）
天文2年（1533）
個人蔵



栗野春慶塗提重
稲川義良作
昭和50年（1975）
当館蔵

しかし、戦後の栗野春慶塗は、安価な合成樹脂製品に需要を奪われ、衰退を余儀なくされます。昭和 51 年（1976）には、国選択の「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」となり、昭和 63 年（1988）には、茨城県の郷土工芸品、平成元年（1989）には、茨城県の無形文化財に指定されました。

かつて、飛騨春慶、能代春慶、栗野春慶の 3 つの春慶塗は、「日本三大春慶」と呼ばれていました。しかし、能代春慶は平成 22 年（2010）に伝承者の消失により制作技法が失伝し、現在、技法再現のための研究や、新たな後継者の掘り起こしが試みられています。栗野春慶塗を取り巻く状況も、苦しいものとなっています。原材料の不足や、販路の縮小、後継者不足に悩まされ、県内の栗野春慶塗の工房は、今では 1 軒を残すのみとなっています。

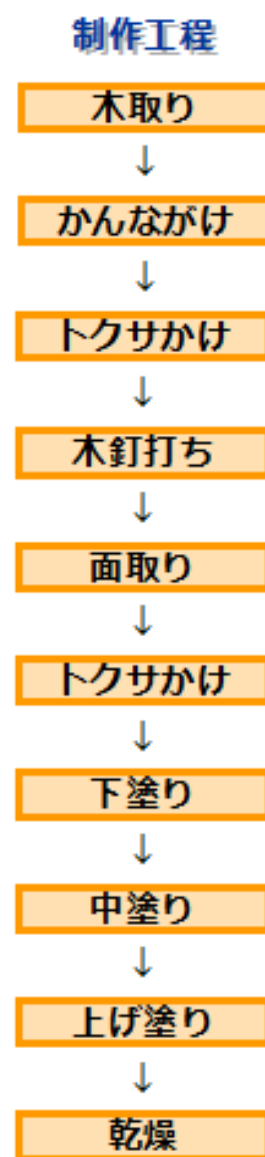
（栗野春慶塗制作工程について）

栗野春慶塗は、現在、東茨城郡城里町栗の地で、稲川山城守源義明の子孫にあたる、19 代目稲川武男さんと 20 代目義一さんによって制作されています。栗野春慶塗は、石桧（イシツピ）や生漆（キウルシ）などの天然の素材を用い、手仕事中心で制作されます。大まかな工程は右図の通りです。

栗野春慶塗の材には、石桧と呼ばれる堅い檜が用いられます。まず、長さ 2 m の板状に製材された石桧を、作品の大きさに合わせて、電動の丸鋸で切り分けます。この工程は「木取り」と呼ばれており、古くは鋸で手曳きしていました。木取りした木材に鉋をかけ、板の厚さを調整した後、トクサで木地の表面を磨き上げます。トクサは「砥草」とも書かれる植物で、表面にヤスリのような細かな凹凸があるため、古くから物を磨くために用いられてきました。サンドペーパーなどで木地を磨くと、研磨剤が木地表面に残り、塗り上がりに影響が出てしまうため、栗野春慶塗制作では、現在でもトクサが使われています。

木材の「トクサかけ」が終わると、部品同士を木釘（キクギ）で接合します。木釘はウツギの枝を円錐状に削ってつくります。サンチンとジョウギという道具で木釘を打ち込む場所を測りだし、錐で下穴をあけます。あらかじめ煎って水分を飛ばした木釘に、米糊をつけて下穴に挿し込み、金槌で打ち込みます。打ち込まれた木釘は、米糊の水分を吸って膨張し、木材をしっかりと接合します。

組み上がった作品に、鉋で「面取り」し、「トクサかけ」を施して、再度、木地の表面を整えます。栗野春慶塗では、漆の下地にニカワなどを用いず、木地に直接、漆を塗るため、木地の仕上げは表面が光を反射するほど平滑になるまで、念入りに行われます。





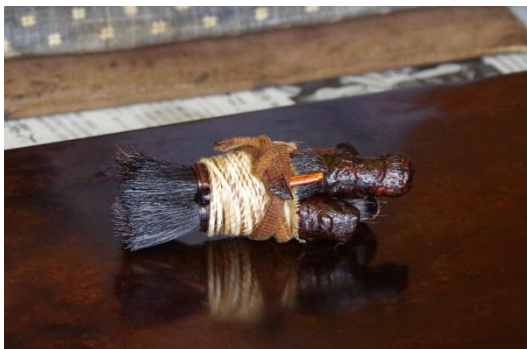
「トクサかけ」



「木釘打ち」

木地の準備が整うと、漆塗りに入ります。栗野春慶塗の漆塗りは、「下塗り」「中塗り」「上げ塗り」の3回に分けて行われます。「下塗り」と「中塗り」の漆には、大子産の生漆に、梅酢とジュウネと呼ばれる荏胡麻油を加えた物を用います。生漆とは、顔料などが加えられていない、天然の漆液です。梅酢は、干した梅を2時間ほど湯に浸してつくる、梅のエキスが染み出した汁です。梅酢とジュウネには塗り上がりの刷毛目を和らげ、光沢を高める効果があるといわれています。

「下塗り」では、主にスリバケという馬の尻毛の刷毛を用いて、漆を木地に直接塗りつけます。「下塗り」で塗った漆は、木地に染みこみすぎないように、サラシで念入りに拭き取ります。塗り上がった作品は、土室（ドムロ）という、土間と土壁の乾燥室に入れて乾かします。土室の中は、漆の乾燥に適切な、温度25℃前後、湿度80%前後に保たれています。現在では乾燥に育苗機などを使う職人が多く、土室での乾燥は全国でも少なくなっています。



スリバケ



下塗り

2日間乾燥させた後、「中塗り」に入ります。ここで塗る漆は、「下塗り」のものよりも梅酢とジュウネを少なめに調合します。中塗りでは、スリバケで漆を塗った後、女性の髪からつくられた、ナデバケという刷毛で表面をならし、埃を取り除きます。

再び土室に入れ、丸1日乾燥させた作品に、最後の塗りとなる「上げ塗り」を施します。「上げ塗り」の漆には、黒目漆（クロメウルシ）を用います。黒目漆とは、生漆の水分を抜き、酸化させて、黒く精製したものです。生漆を日光のもとで3時間ほど混ぜ続けると、黒目漆が出来上がります。この作業は「クロメる」「クロマる」と



黒目漆



上げ塗り（ナデバケ使用）

いわれ、クリーム色の生漆は濃い焦げ茶色に変色します。美吉野紙で漉した黒目漆に、ごく少量の梅酢とジュウネを加えて塗り上げます。黒目漆には、作品の光沢を増す効果があるといわれています。塗り上がった作品を土室に入れ、2日間の乾燥を経て完成となります。

栗野春慶塗は、下地にニカワや砥の粉などを用いないため、漆が剥がれにくく、木地の木目が透けて見える点が大きな特徴です。この木目を活かすため、ゆがみの出にくい柾目の木材ではなく、扱いの難しい板目の木材を材料としています。栗野春慶塗は、年月を経るにつれ赤みがぬけ、黄金色の輝きをもつようになるといわれています。

（公開について）

当館製作の記録映像の媒体は当初はVHSビデオでしたが、主流となる媒体の移り変わりに伴い、平成21年度以降は全てDVDで製作しています。古い媒体の更新作業は映像資料の宿命であり、過去の貴重な記録映像を残すためにも、時代に応じて常に必要となります。

当館で製作したこれらの記録映像は、自由公開という形にはなっていませんが、今後も当館の展示や出前講座で積極的に活用してまいります。平成26年度テーマ展「つくる一茨城の伝統工芸」でも、エントランスホールにて、本記録映像「栗野春慶塗」を上映いたしました。

また、通常の館蔵資料と同様、他館や学校団体・公的団体での教育活動への利用の場合は「資料貸出申請書」を提出の上、貸出等も可能です。

今後も、有形の資料だけではなく伝統技能などの中にある、人々のこころの部分まで伝えられるように、映像資料のよりよい活用や展示のあり方について、考えを深めていきたいと考えています。

（学芸課 資料調査専門員 田中伸吾）

茨城県立歴史館制作 無形民俗資料記録映像

タイトル	撮影地	時間	媒体	製作年度
だるま	ひたちなか市	約 15 分	VHS	平成 7 年度
鳥追い	北茨城市／筑西市	約 10 分	VHS	平成 7 年度
鷺子彫	常陸大宮市	約 15 分	VHS	平成 8 年度
西金砂神社小祭礼	常陸太田市	約 15 分	VHS	平成 8 年度
国寿石 大子硯	大子町	約 15 分	VHS	平成 8 年度
盆綱	茨城町／小美玉市	約 15 分	VHS	平成 9 年度
金砂郷のそばづくり	常陸太田市	約 15 分	VHS	平成 9 年度
延方相撲	潮来市	約 15 分	VHS	平成 10 年度
太陽と月のまつり	常陸太田市／稲敷市	約 15 分	VHS	平成 10 年度
棒ささら	水戸市／ひたちなか市／石岡市	約 15 分	VHS	平成 11 年度
巫女舞神事	潮来市	約 16 分	VHS	平成 12 年度
大津の盆船流し	北茨城市	約 15 分	VHS	平成 13 年度
鹿島神宮御船祭	鹿嶋市／潮来市	約 20 分	VHS	平成 14 年度
常陸太田の雪村うちわ	常陸太田市	約 14 分	VHS/DVD	平成 15 年度
茨城の年中行事Ⅰ（①浅間様／②御太刀／③オビシヤ／④節分追儺式）	①稲敷市／②河内町／③取手市／④稲敷市	約 22 分	VHS	平成 16 年度
茨城の年中行事Ⅱ（①へいさんぼう／②大日様／③盆綱／④盆船流し／⑤大飯まつり）	①かすみがうら市／②稲敷市／③小美玉市／④北茨城市／⑤桜川市	約 29 分	VHS	平成 17 年度
茨城の年中行事Ⅲ（①部垂の祇園／②鷺子山の祇園／③アワアワ祇園／④馬出し祇園／⑤撞舞／⑥藤切り祇園）	①②常陸大宮市／③小美玉市／④行方市／⑤龍ヶ崎市／⑥かすみがうら市	約 33 分	VHS/DVD	平成 17 年度
茨城の奉納相撲（①延方相撲／②化蘇沼稻荷神社奉納相撲／③常陸国総社宮例祭奉納相撲／④栗山観音祭礼相撲／⑤鹿島神宮相撲祭）	①潮来市／②行方市／③石岡市／④八千代町／⑤鹿嶋市	約 28 分	VHS/DVD	平成 18 年度
茨城の祝い舞（①水戸大神楽／②三河万歳）	①水戸市／②筑西市	約 43 分	VHS/DVD	平成 19 年度
筑波山お座替わり神事	つくば市	約 20 分	VHS/DVD	平成 20 年度
鹿島みろく	鹿嶋市／熱海市／小田原市	約 20 分	DVD	平成 21 年度
茨城の年中行事Ⅳ～天狗信仰の行事～（①大杉神社あんば様／②下石崎のあんば祭り／③玄生地区の大杉様／④西丸山祈祷ばやし／⑤愛宕神社の悪態祭り）	①稲敷市／②茨城町／③鉾田市／④つくばみらい市／⑤笠間市	約 27 分	DVD	平成 22 年度
茨城の年中行事Ⅴ（①タバンカ祭り／②一つもの神事／③八日まつり）	①②下妻市／③桜川市	約 26 分	DVD	平成 23 年度
筑波山禅定と筑波講	つくば市	約 35 分	DVD	平成 24 年度
素鷲神社祇園祭（小川の祇園）とトウヤの行事	小美玉市	約 45 分	DVD	平成 25 年度
栗野春慶塗	城里町	約 30 分	DVD	平成 26 年度